令和8年度入学生用

1年次（令和8年度開講）

留学生特別科目

【教 育 課 程】

令和8年度入学生　教 育 課 程

別表 第4 留学生特別科目教育課程表
（〇印は一般教養科目と重なる）

ページ番号	授業科目	授業形態	履修方法 履修単位数 必修	選択	開講学期単位数 1前	1後	2前	2後	備考
	外国人留学生特別科目		＊日本語を第一言語（母語）とする学生は、下記の科目を受講することはできない。						
3	〇 日本語演習Ⅰ	演習	2		2				日本語演習Ⅰ～Ⅱの修得単位は外国語演習の単位に代えることができる。
5	〇 日本語演習Ⅱ	演習	2			2			
	日本語演習Ⅲ	演習	2				2		＊但し、教員免許の取得を希望する場合は、日本語演習以外の言語を選択し、Ⅰ・Ⅱを連続で履修する必要がある。
	日本語演習Ⅳ	演習	2					2	
7	日本事情Ⅰ	演習		1	1				但し、科目の修得単位は一般教養科目の単位に代えることができる。
9	日本事情Ⅱ	演習		1		1			＊履修方法については各学科毎に定める
	日本事情Ⅲ	演習		1			1		
	日本事情Ⅳ	演習		1				1	
	最低修得単位数		8	4					

科目名	日本語演習Ⅰ	**科目ナンバー**	**AR021007**
担当者	担当者未定		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	演習		
配当年次	1	**科目群**	一般教養科目［留学生特別科目］
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	選択必修
単位数	2	**担当形態**	単独
免許・資格情報	―		

授業の概要	この授業では、日本語学校で習ったJLPT N2(CEFR B2.2)レベルの日本語の言葉や表現を復習し、会話や作文で正しく使えるようにします。その後N1(C1～C2)の学習に入ります。短期大学の授業では、日本語学校の授業では習わない専門的な言葉も覚える必要があるため、その勉強もします。また、色々な場面での会話練習や、日本のニュース記事などを読んで、他の国や地域と比較しながら、自分の意見や考えを言ったり、書いたりする練習もします。			
授業の到達目標	1.N2～N1レベルの日本語の漢字や語い、表現を覚え、会話や作文で、それらを正しく、効果的に使うことができる　2. 短期大学の授業で使われる言葉の意味が分かる 3. 日本の社会や文化について理解を深め、自分の意見を明確に述べられる			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎	○		○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	テストをして、みなさんの日本語の能力を調べます	担当者未定
第2回	文法：行為の対象／語いと漢字1／会話・ディスカッション：ニュース	担当者未定
第3回	文法：目的・手段・媒介／語いと漢字2／会話・ディスカッション：旅行	担当者未定
第4回	文法：起点・終点・限界・範囲／語いと漢字3／日本の歌を歌う	担当者未定
第5回	文法：時間的同時性・時間的前後関係／／語いと漢字4／会話・ディスカッション：ニュース	担当者未定
第6回	文法：進行・相関関係　／語いと漢字5／会話・ディスカッション：学校	担当者未定
第7回	文法：付帯・非付帯　／語いと漢字6／作文：学校	担当者未定
第8回	中間テスト	担当者未定
第9回	文法：限定／語いと漢字7／会話・ディスカッション：ニュース	担当者未定
第10回	文法：非限定・付加　／語いと漢字8／会話・ディスカッション：病院	担当者未定
第11回	文法：比較・程度・対比　／語いと漢字9／日本の昔話を読む	担当者未定
第12回	文法：基準／語いと漢字10／会話・ディスカッション：ニュース	担当者未定
第13回	文法：関連・対応／語いと漢字11／会話・ディスカッション：お祭り	担当者未定
第14回	文法：無関係・無視・例外　／語いと漢字12／作文：お祭り	担当者未定
第15回	日本の映画を見て「日本文化」について考えます	担当者未定

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業の前に配ったプリントを見ておいてください	学習合計時間(h)	30
事後学習	授業で教わったことを、その日に家でもう一度勉強し、実際の場面で使ってみてください	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	中間テストなどで確認します		
質問・相談方法	何かあれば、授業中や授業の前後に相談・質問してください		
オフィスアワー			

テキスト	特になし(プリントを配ります)
参考文献等	『改訂版　どんなときどう使う　日本語表現文型500』　友松悦子ほか 株式会社アルク 2013年 2500円　(ISBN：978-4757418905),『新・シャドーイング　日本語を話そう！　中～上級編　[英語・中国語・韓国語訳版]』斎藤仁志ほか くろしお出版 2022年 1800円（ISBN: 978-4-87424-
成績評価基準	授業に対する積極性や、勉強した文型や語いが使えるようになったかどうかを評価の基準にします
成績評価の方法	授業態度(20%)　中間テスト(40%)　課題レポート(40%)
ＧＰＡ基準	
備考	受講対象者　留学生のみ

科目名	日本語演習 II	**科目ナンバー**	**AR022012**
担当者	担当者未定		
科目	—		
施工規則に定める科目区分または事項等	—		
授業形式	演習		
配当年次	1	**科目群**	一般教養科目［留学生特別科目］
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	選択必修
単位数	2	**担当形態**	単独
免許・資格情報	—		

授業の概要	この授業では、JLPT N1(CEFR C1〜C2)レベルの言葉や表現を勉強し、会話や作文で、それらを正確に使えるようになるための練習をします。それぞれの学科で必要な言葉を学び、読める漢字もさらに増やします。また、色々な場面での会話練習をする他、日本の文化や社会の問題に関する文章を読んだり、自分で情報を調べたりし、仲間や教員と日本語でディスカッションをします。			
授業の到達目標	1.N1レベルの日本語の漢字や語い、表現を覚え、会話や作文で、それらを正しく、効果的に使うことができる　2. 短期大学の授業で使われる言葉の意味が分かり、レポートや発表にも取り入れられる 3. 日本の社会や文化について理解を深め、説得力をもって自分の見解が提示できる			
ディプロマポリシー(DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎	○		○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	夏休みにしたことについて、発表します	担当者未定
第2回	文法：例示／語いと漢字1／会話・ディスカッション：ニュース	担当者未定
第3回	文法：程度の強調　／語いと漢字2／会話・ディスカッション：病院	担当者未定
第4回	文法：話題／語いと漢字3／日本の歌を歌う	担当者未定
第5回	文法：逆接・譲歩／語いと漢字4／会話・ディスカッション：ニュース	担当者未定
第6回	文法：原因・理由／語いと漢字5／会話・ディスカッション：自然災害	担当者未定
第7回	文法：仮定条件・確定条件／語いと漢字6／作文：自然災害	担当者未定
第8回	中間テスト	担当者未定
第9回	文法：逆接仮定条件／語いと漢字7／会話・ディスカッション：ニュース	担当者未定
第10回	文法：不可能・可能・困難・容易／語いと漢字8／会話・ディスカッション：防災	担当者未定
第11回	作文：傾向・状態・様子　／語いと漢字9／日本の昔話を読む	担当者未定
第12回	文法：経過・結末／語いと漢字10／会話・ディスカッション：ニュース	担当者未定
第13回	文法：否定・部分否定／語いと漢字11／会話・ディスカッション：冠婚葬祭	担当者未定
第14回	文法：伝聞・推量／語いと漢字12／作文：冠婚葬祭	担当者未定
第15回	日本の映画を見て「日本文化」について考えます	担当者未定

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連			
事前学習	授業の前に配ったプリントを見ておいてください	学習合計時間(h)	30
事後学習	勉強した表現を、実際の場面でたくさん使ってください。アルバイトなど、学校の時間じゃないときにも、よく復習してください	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	中間テストなどで確認します		
質問・相談方法	何かあれば、授業中や授業の前後に相談・質問してください		
オフィスアワー			

テキスト	特になし(プリントを配ります)
参考文献等	『改訂版　どんなときどう使う　日本語表現文型500』　友松悦子ほか 株式会社アルク 2013年 2500円　(ISBN：978-4757418905),『新・シャドーイング　日本語を話そう！　中～上級編　[英語・中国語・韓国語訳版]』斎藤仁志ほか くろしお出版 2022年 1800円（ISBN: 978-4-87424-
成績評価基準	授業に対する積極性や、勉強した文型や語いが使えるようになったかどうかを評価の基準にします
成績評価の方法	授業態度(20%)　中間テスト(40%)　課題レポート(40%)
ＧＰＡ基準	
備考	受講対象者　留学生のみ

科目名	日本事情Ⅰ	**科目ナンバー**	**AR041008**
担当者	岩切　朋彦		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次		**科目群**	留学生特別科目
開講期	前期	**卒業の選択・必修**	―
単位数	1	**担当形態**	単独
免許・資格情報	―		

授業の概要	本授業は留学生が日本の習慣と日本の文化を知り、日本の社会を理解するための授業です。「日本事情Ⅰ」では、マンガやアニメ、音楽など、主に日本のポピュラーカルチャー（大衆文化）から日本の文化について理解を深めていきます。			
授業の到達目標	1. 日本のポピュラーカルチャーから日本社会について理解できる|2.マンガやアニメについての基本的な知識と、その歴史的変遷について知ることができる|3.日本のポピュラーカルチャーについて詳しく理解し、ジャンルごとに説明することができる			
ディプロマポリシー（DP）	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎			○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	日本のマンガの特徴と、その書き方	岩切
第2回	日本のマンガのルーツと時代背景	岩切
第3回	浮世絵の登場とその時代背景	岩切
第4回	浮世絵に影響を受けた西洋の芸術	岩切
第5回	幕末期のマンガ―チャールズ・ワーグマンと『THE JAPAN PUNCH』	岩切
第6回	アメリカのコマ漫画の影響と、子どものためのストーリー漫画	岩切
第7回	戦争中のマンガと『サザエさん』	岩切
第8回	「マンガの神様」と呼ばれた男、手塚治虫	岩切
第9回	日本でのアニメーションの発展とその社会背景	岩切
第10回	戦後日本アニメの発展―虫プロダクションからジブリまで	岩切
第11回	戦後の流行歌、坂本九と「上を向いて歩こう」	岩切
第12回	戦後の歌謡曲と美空ひばり	岩切
第13回	テレビの普及とアイドルの誕生	岩切
第14回	J－POPに見る英語の歌詞	岩切
第15回	ファミリーコンピュータの登場と、テレビゲームの発達	岩切

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連	担当教員は日本語学校で、日本語教師として働いたことがあります		
事前学習	日本のマンガをたくさん読み、アニメも見てください。アニメは字幕を見ないで見てください	学習合計時間(h)	30
事後学習	その日の授業で取り上げた内容のアニメなどを、インターネットで調べてもう一度見てください	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	授業の後に感想を聞いて、理解できたかどうかを調べます		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応します		
オフィスアワー	金曜日　10：50～12：20　研究室（西館407号室）		

テキスト	特になし（プリント配付）
参考文献等	特になし
成績評価基準	①日本のポピュラーカルチャーに対する理解度　②母国のポピュラーカルチャーとの違いについて考えることができる　③受講態度
成績評価の方法	期末レポート（80%）　受講態度（20%）
ＧＰＡ基準	
備考	

科目名	日本事情 II	**科目ナンバー**	**AR042013**
担当者	岩切　朋彦		
科目	―		
施工規則に定める科目区分または事項等	―		
授業形式	講義		
配当年次		**科目群**	留学生特別科目
開講期	後期	**卒業の選択・必修**	―
単位数	1	**担当形態**	単独
免許・資格情報	―		

授業の概要	本授業は、留学生が日本の習慣と文化を知り、日本の社会を理解するための授業です。「日本事情 II」では、日本の生活文化、年間の行事・祝祭日、政治経済、観光、多文化共生などについて説明します。また、日本語の表現も中級から上級の難しいものに挑戦します。			
授業の到達目標	1. 日本の生活や文化について今より詳しい内容を知ることができる2. 日本の政治経済や社会の仕組みについて今より詳しいことを理解できる3. 日本社会の多文化化と多文化共生に向けた考え方について理解できる			
ディプロマポリシー (DP)	1 主体的に学び、多様な考え方に触れ、柔軟な思考ができる。	2 自己を高めるとともに、他者との関わりを良好に保つことができる。	3 地域への関心を深め、地域活性化の担い手として課題解決に意欲的に取り組む。	4 社会や文化に対して関心を持ち、広い視野に立って、社会に参画する力を持つ。
DPとの関連	◎			○
※関連するＤＰ番号に○（複数可）、最も関連部会ＤＰ番号は◎（1か所のみ）				

授業計画		**担当者**
第1回	日本という「国民国家」	岩切
第2回	都市と地方の違い	岩切
第3回	旅行に行くならどこへ行く？	岩切
第4回	日本の食と母国の食	岩切
第5回	年中行事と非日常	岩切
第6回	教養として知る日本の歴史	岩切
第7回	「伝統文化」は本当に「伝統」ですか？	岩切
第8回	ポップカルチャーも立派な文化	岩切
第9回	日本で人気のあるスポーツについて	岩切
第10回	科学技術の進歩と未来社会	岩切
第11回	環境問題を解決するには	岩切
第12回	子どもたちと教育	岩切
第13回	日本の産業構造と経済	岩切
第14回	日本国憲法と政治(国会中継を見てみよう)	岩切
第15回	多文化共生社会をめざして	岩切

授業に含まれる活動	ディスカッション・討論	グループワーク	プレゼンテーション・発表	実習（実験・実技）・フィールドワーク	その他の活動※ＩＣＴ教育等を含む
	○	○			

担当教員の実務経験と授業の関連	担当教員は日本語学校で、日本語教師として働いたことがあります		
事前学習	テキストを読んで予習をしてください	学習合計時間(h)	30
事後学習	その日の授業で勉強したことを復習してください	学習合計時間(h)	30
課題に対するフィードバックの方法	授業の後に感想を聞いて、理解できたかどうかを調べます		
質問・相談方法	授業の前後やオフィスアワーで対応します		
オフィスアワー	金曜日　10：50～12：20　研究室(西館407号室)		

テキスト	特になし(プリント配付)
参考文献等	特になし
成績評価基準	1日本の国内事情に対する理解度　2日本と母国の違いについて考えることができる　3受講態度
成績評価の方法	期末レポート(80%)　受講態度(20%)
ＧＰＡ基準	
備考	